

## 1998 年英国ウェイクフィールド医師の冤罪事件 —MMRワクチンと自閉症—

中央区・はなクリニック 徐 昌教（医師）

自閉症は今も増加の一途をたどる。その分岐点となった論文が 1998 年のランセット論文である。筆頭医師であった、アンドリュー・ウェイクフィールド医師は自閉症を持つ両親の訴えに耳を傾けた数少ない医師の 1 人であった。彼は、小児科医や消化器科医、病理医による医療専門家からなるチームを組織し、自閉症児たちの治療のためのガイドランスを作成するために、自閉症児に検査を実施した。そして 12 例の症例報告としてランセット誌にのせた。論文発表後に記者会見が開かれ、ウェイクフィールド博士は、MMR ワクチンの安全性と自閉症との関連性について懸念を表明した。安全対策として、彼は 3 種混合の MMR ワクチンをやめ、3 つの単一ウイルスワクチンを別々に接種することを推奨した。

ところが、2004 年に、この論文がねつ造であるという記事が週刊誌に掲載された。筆頭医師であった、アンドリュー・ウェイクフィールドはこの記事の後、医師免許をはく奪されることになる。そして“英国の中で最も非難される医師の一人”になった。しかしこの事件は冤罪なのである。ねつ造であるという週刊誌の記事そのものが、でっち上げであることが裁判で明らかになった。自閉症患者の家族に最も誠実に対応した医師が何故、どのようにして、冤罪に巻き込まれてしまったのか、何故、20 年たった今も名誉回復されず、世界の良識ある医師が、彼を貶め続けているのか、その真相を明らかにしたい。